

図書館教育部から

陽ざしにはまだまだ夏の名残もありますが、日の長さも少しずつ短くなってきました。夏の思い出と共に、なんだか一回り大きくなったような子どもたち。始業式の今日、元気いっぱい学校に登校してきました。この夏休みの間に「たくさん本を読んだよ！」と、子どもたちからの声も聞こえてきました。

貴志小学校では、毎朝10分間の読書タイムがあります。図書室の本はもちろん、各教室には県立図書館から借りてきた本も置いてあり、子どもたちは次々手にとって読んでいます。また、図書の時間には図書室で本を借りたり、読んだりしています。低・中・高と人気の本は様々ですが、やはり「怖い本のシリーズ」や、「かいけつゾロリ」・「こまったさん」・「歴史の本」などは昔と変わらず人気が高いです。「ウォーリーを探せ」や「ミッケ！」も学年を問わずたくさんのおもたちたちに読まれているようです。

9月にはそれぞれの教室に新刊本が届きます。子どもたちがわくわくドキドキしそうな本が何冊もそろいます。読書は子どもたちの語彙力を増やすだけでなく、想像力も豊かにしてくれます。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、これから何をするにもいい季節です。これを機に、ぜひお家でも読書をする機会を設けていただければ幸いです。

一学期は図書委員がアンケートをとり、人気のあった本の読み聞かせを行いました！読んでいる子ども、聞いている子どもみんな真剣でした！



3年生から

7月7日、七夕の日に、和歌山大学の留学生のみなさんが3年生の教室に来てくれました。中国、韓国、インドネシア、マレーシア、フランス、ハンガリー等の国の方たち7人と、七夕飾りを作り、歌を歌い、子どもたちが企画したゲーム等を行いました。「どんな方たちが来るのかな」と、とっても楽しみにしていた子どもたちですが、いざ当日となると少し緊張していました。中には日本語が全く話せない方もいましたが子どもたちなりにコミュニケーションをとろうと精一杯頑張っていました。そして最後には留学生のみなさんと、とっても仲良くなることができました。夏休みには国へ帰ってしまう留学生の方もいました。さよならするのが名残惜しそうな子どもたちの顔が印象的でした。